

高弾道
フェードで
飛ばす



やさしい 元調子という 新種発見

2025年10月、USTマミヤから「アッタスRXウルトラブラック」が発売される。
悩めるゴルファーへの処方箋「RX (prescription)」シリーズ最新作は、
“ウルトラやさしい”元調子という新ジャンルの始祖となるのか？

写真／野村知也、三木崇徳 協力／Gスタジオ茅場町

2025. 10.9 Debut!



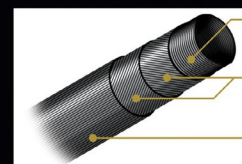
これが
UST Mamiyaの
ロースピンヘッドへの
新しい最適解か!?

ATTAS
RXULTRA
BLACK [アッタスRXウルトラブラック]

「元調子」難しい」の 概念が覆る

昨年12月に発売された「アッタスRXサンライズレッド」が記憶に新しい中、10月に「アッタスRXウルトラブラック」(以下アッタスウルトラ)が発売される。アッタスの「RXシリーズ」は、「RX II prescription」(処方箋の略)の名の通り、世のアマチュアゴルファーの悩みを解消するために生まれたシリーズ。第1弾の「アッタスサンライズ」は、極限のつかまりを謳ったスライス解消シャフトだった。新作「アッタスウルトラ」は、つかまりすぎやチーピンに悩むゴルファーを救う元調子系となる。元調子のシャフトといえは一般的にハードな印象があるが、そこはRXシリーズ。元調子にありがちな振り遅れを防ぎ、十分な打ち出し角を得られる重心設計を採用している。使用しているカーボン繊維は、強さとしなやかさを両立した高性能カーボン素材「トレカ® T1100G」をメインに先端部にはねじれに強い四軸®カーボンシート。スウィングの誤差がシャフト挙動に表れないようカーボン繊維を人体の構造を模して配置する「トライシンクテクノロジー」を採用しているのが特長だ。

シャフト挙動の 再現性を劇的向上 新技術 「トライシンク」採用

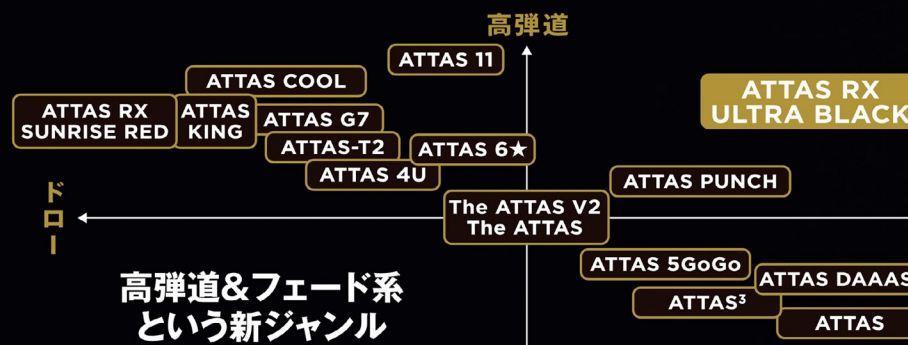


フープ層
カーボン繊維の方向をつぶれにくいよう工夫

バイアス層
カーボン繊維を斜めに配置しねじれを抑制

ストレート層
先端から末端に一直線に配してしなり量を調整

シャフトのつぶれやねじれを抑えて挙動を安定させるために、人体の構造(骨/筋肉/皮膚)を模倣したUSTマミヤ独自の技術が「トライシンクテクノロジー」。つぶれを防ぐ骨、パフォーマンスを上げる筋肉、それをバランスよく押さえる皮膚、3つのバイアスを均等に配置することでシャフトの動きを安定させ、シャフト挙動の再現性を高めている



高弾道&フェード系 という新ジャンル

RXシリーズ第1弾のアッタスサンライズはアッタス史上最もドロー系のモデルだったが「アッタスウルトラ」のポジショニングは高弾道&フェード。過去のモデルを見渡しても同じキャラクターを持つシャフトはない新境地だ

「キューティフル」な次期スター候補
パク・ヒョンギョンも
テストで手応え!

「愛用中の『V2』より振りやすく、
飛距離も出て弾道も安定しました。
これからフィッティングします!」



ウルトラやさしい 黒アッタス。

ATTAS ULTRA誕生。

USTマミヤスタッフも

アッタスウルトラに ぞっこん!



私の頑固なチーピンも劇的に出なくなりました。あまりにも良すぎて、試作段階の時から愛用しています!もう手放せません(USTマミヤ商品企画・マーケティング部・杉本氏)

アマチュア 森崎さんは
チーピンの不安がなくな
ったと大満足



ストレートに近い ドローが安定して 打てました

森崎さん

「黒いシャフトは細く見えてシャープに振れる気がします。いつもよりミート率が高く、ストレートに近いドローが安定して打てました」

森崎アマ試打DATA(6S)

ヘッドスピード	スピン量	キャリー
46.0m/s	2210rpm	258Y
打ち出し角	弾道高さ	総距離
14.6度	33.5Y	283Y

アッタスウルトラを試打する
西田プロ。試打インプレ
ッションに定評があり
アマチュアへのレッスン
経験も豊富



クセのない 振り心地が 魅力です

西田幸一プロ

「当たり負けしないので弾道の再現性が高いです。6Sはヘッドスピード44m/s以上の人に合いそう。ボールも上がりやすく、クセのない振り心地が魅力です」

西田プロ試打DATA(6S)

ヘッドスピード	スピン量	キャリー
48.9m/s	2400rpm	275Y
打ち出し角	弾道高さ	総距離
12.5度	40.5Y	299Y

ATTAS RX ULTRA BLACK

チーピンが 一発で解消! プロとアマが試打テスト

球がつかまる、高く上がる、
でも左に行かない元調子

「アッタスウルトラ」の実力を探るべく、試打に定評のある西田幸一プロと突発的に出るチーピンに悩むアマチュア森崎さんに試打してもらった。普段から手元調子のシャフトを愛用している西田プロは、「まず5Sから試打しました。アッタスは少し軟らかいイメージがありました。ヘッドスピードを上げていっても当たり負けする感覚がありません。手元が程よくしなってくれるのでタイミングが取りやすいです。先、先がしつかりしているの予想外のミスが出にくい。クセのないシャフトだと思っています。先調子のシャフトがドローをイメージしやすいのに対して、元調子のシャフトはドローもフェードもイメージできます。コースで球筋を打ち分けやすいですね」と話す。

続いてはゴルフ歴10年。平均スコア93~94の森崎さん(50代

半ば)。ヘッドスピードは45m/s。オーバーとかなり振れるほうだが、突発的に出るチーピンが悩みの種。左へのミスを減らすことを課題にしているという。実際に打つてもらうと「持ち球はドローですがとても振りやすいですね。ワッグルすると少し軟らかさを感じますが、スパッと振り抜きやすいです。ストレートに近いドローが安定して出せます。ミスしても少し右に行くくらいで、チーピンがほとんど出ないのに驚きました。黒いシャフトは難しそうに見えますが、ボールも程よく上がりますし、とてもやさしいですね」と、「アッタスウルトラ」の性能を実感した様子。

どんなゴルフファーに合っているかを西田プロに聞くと、「競技に出ていような人から初心者まで、幅広いゴルフファーに合います。元調子のシャフトでありながら程よくつかまってくれますし、高すぎない中高弾道の飛ぶボールが打ちやすいです。とはいえ、元調子は元調子です。スライサーには合わないでしょうね。左へのミスを減らしたい人、スピンの多い人にはおすすめです」

アマチュアでも使いこなせるやさしさを追求した元調子の「アッタスウルトラ」。ぜひお試しください。